

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
福岡医療専門学校		平成23年4月1日	藤瀬 武		〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3番1号 (電話) 092-833-6120		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 福岡医療学院		平成11年4月1日	理事長 藤瀬 武		〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3番1号 (電話) 092-833-6120		
目的	基礎医学および診療放射線技師に関する最新かつ実践的な専門知識と技術、さらには自らの職業に対する誇りとチーム医療を担う豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
医療	医療専門課程		診療放射線科		平成25年文部科学省告示第2号	-	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2745	1710	240	540	225	30
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
200人		210人		12人	32人		44人
学期制度	■前期: 4月 1日～ 9月30日 ■後期: 10月 1日～ 3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目の成績は100点満点とし、期試験及びその他の各種資料(定期試験以外の試験、学習態度、出席状況等)に基づいて決定する。原則として60点以上を合格とする。実技実習、臨床実習、臨地実習及び体育実技の成績についても同様とする。		
長期休み	■学年始: 4月 1日～ 4月 2日 ■夏季: 7月29日～ 8月27日 ■冬季: 12月23日～ 1月 8日 ■学年末: 3月17日～ 3月31日			卒業・進級条件	学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないものとする。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 日々の出席状況をクラス担任が把握し、欠席が続く者には保護者へ連絡し、長期欠席にならないよう取り組んでいる。附属クリニックにおける専門医の相談の場を設けている。			課外活動	■課外活動の種類 部活動 女子陸上競技部・バドミントン部・サッカー部・ソフトテニス部・バスケットボール部・バレーボール部・野球部・ソフトボール部・剣道部・柔道部・総合運動部・卓球部・少林寺拳法部・軽音吹奏楽部・東洋医学研究部・ヘルス&ビューティ部等		
					■サークル活動: 有		

就職等の状況	■主な就職先、業界等 井植病院、岡部病院、下関総合病院、周東総合病院、新座志木中央総合病院、新富士病院、千鳥橋病院、中京病院、流山中央病院、西福岡病院、のぞえ総合心療病院、原土井病院、福岡記念病院、福岡青州会病院、福岡赤十字病院、福岡脳神経外科病院、福岡リハビリテーション病院、福西会病院、宮崎医療センター、牟田病院等		主な資格・検定等 診療放射線技師国家試験受験資格
	■就職率 ^{※1} : 100 %		
	■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 %		
	(平成 28 年度卒業者に関する平成29年7月1日 時点の情報)		
中途退学の現状	■中途退学者 12 名 平成28年4月 1日 在学者 161 名 平成29年3月31日 在学者 149 名	■中退率 7.5 % (平成28年4月1日 入学者を含む) (平成29年3月31日 卒業者をを含む)	
	■中途退学の主な理由 経済的事由 成績不良		
	■中退防止のための取組 奨学金や教育ローンの拡充をはかり、経済的困難な学生のサポートに努めている。入学予定者に対するサポートデスクを立ち上げ、入学までの学力向上を図っている。複数担任制を導入し補充指導等とおして、きめ細やかなサポートを継続している。		
ホームページ	URL: http://www.jusei.ac.jp/		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程編成委員には、以下の両方または何れかの条件を満たす者を選定している。

1. 業界団体に所属し、要職に就いている有識者
 2. 現場を指揮し、医療の最先端で活躍している院長や所属の長
- このような業界全体の動向、実務に関する知識や技術に関する知見を有する委員からの要請等を教育課程編成委員会にて協議していく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年7月1日現在

名前	所属
藤瀬 武	福岡医療専門学校 校長
長門 俊一	福岡医療専門学校 副校長
市原 隆洋	福岡医療専門学校 診療放射線科 学科長
高橋 正徳	横浜市南部地区放射線技師会 理事 医療法人横浜柏堤会 戸塚共立第1病院 放射線科 科長
義本 正二	医療法人社団誠和会 牟田病院 事務長 (画像診断科 元技師長)

(開催日時)

第1回 平成29年 6月10日 15:00~17:00

第2回 平成29年11月25日 15:00~17:00(予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

講義・実習で得たX線撮影技術学、診療画像検査技術学、放射線治療技術学、核医学検査技術学についての知識と技術をもとに、診療放射線技師として必要な臨床放射線技術を習得するために、各部門に精通した臨床実習指導者(満5年以上の臨床経験がある)を選定する。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習(2年次)	病院で行われるX線単純撮影、透視、CT、各種造影検査、MRI、超音波画像検査に関する診療を体験する中で基礎知識・技術を再確認し医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	戸田中央総合病院、千葉労災病院、君津中央病院、村上華林堂病院、洛和会音羽病院 総数24施設
臨床実習(3年次)	病院で行われる核医学検査、放射線治療等に関する診療を体験する中で実践的な幅広い知識・技術を習得する。また、各部門の運営の実際や被検者及び患者に対する適切な対応を学ぶ。	戸田中央総合病院、上尾中央総合病院、洛和会音羽病院、千葉労災病院、君津中央病院 総数12施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校は、教員が学生に対し、社会のニーズに応えることのできる即戦力及び臨床能力の高い医療技術者を育てるために、より職業実践的な教育をすることを目的に掲げている。

この目的を達成するためには、教員の資質向上は必須の条件となる。そこで、次に掲げた事項を進めることにより、教員の資質向上の支援を行っている。

1. 研修規程を定めて、計画的かつ継続的な研修受講を支援する。
2. 本校附属臨床施設(福岡医療クリニック)での臨床経験を積むことにより、実際の現場での知識・技術の修得をすすめる。
3. 外部機関(学会・研究会・研修等)に対して会場提供を積極的に行い、様々な分野での知識修得を奨励する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年7月1日現在

名 前	所 属
北原 孝子	朝日ホーム有限会社 顧問
下迫 勇夫	福岡市立福岡西陵高等学校 元校長
上野 啓介	うえの整骨院 院長 6期卒業生
松山 基光	松山整骨院 院長
馬場 鮎美	福岡東鍼灸整骨院 副院長
木下 健一郎	有限会社ひかり(通所介護ライズ) 代表取締役
山中 知愛	医療法人西福岡病院 放射線科 科長
池田 悦子	医療法人社団正樹会 佐田整形外科病院 副院長

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.iusei.ac.jp/outline/hvoka.html](http://www.iusei.ac.jp/outline/hvoka.html)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

[URL:http://www.iusei.ac.jp/outline/hvoka.html](http://www.iusei.ac.jp/outline/hvoka.html)

授業科目等の概要

(医療専門課程 診療放射線科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			数学Ⅰ	初高校数学の復習から、基礎的な数学の知識を演習し習得する。	1前	30	1	○			○			○	
○			数学Ⅱ	微分・積分の考え方を理解し、高度な微分積分を習得する。	1後	30	1	○			○			○	
○			統計学	統計学とは様々な情報を集約・集計することで、一見バラバラに見える情報から傾向を見出すなどの学問である。医療現場においても、病気になりやすい人や年齢等はきちんとした統計学を基に数字として現されたものである。本講義では統計学の基礎なるものについて講義を行っていく。	2後	30	1	○			○			○	
○			物理学	物理学は様々な現象を客観的な視点を持って理解する学問である。『物体が上から落ちる』等、簡単な現象についても、様々な法則が関わっており初めは理解するのが困難かもしれない。本講義では物理学として必要な視点とそれに関わる数式の扱い方などについて講義を行う。	1前	30	1	○			○			○	
○			化学	化学物質の組成・性質・物質間の変化について学び、原子核・原子・分子の区別についての詳細を紹介する。	1前	30	1	○			○			○	
○			生物学	生物学は、生物に関わる現象を研究する科学である。対象となる現象や生物の種類も多く、ヒトを対象とした研究はその一部でしかない。本講義ではヒトを中心に、生物の基本単位である細胞から個体に至る生命現象を扱う。	1前	30	1	○			○			○	
○			基礎実験	力学、光学、電気物理学分野についての実験・実習を行う。	1前	30	1			○	○			○	
○			倫理学	倫理学は様々なテーマに対し、一元的な自分の考えだけでなく、より客観的視点を持って問題を考えていく学問である。客観的な視点を持つためには、別角度からの視点、考え方や発想力などが必要となる。本講義では倫理学の基礎となる考え方を講義していく。	1前	30	1	○			○			○	
○			心理学	本講義では人間の心理と行動を理解するために必要と思われる基礎的領域と応用的領域を中心に講義を行う。内容は「1. 脳の働き、環境認知、欲求、学習」、「2. 性格、知能、発達」、「3. 人間理解の方法、心理療法、社会行動」について講義を行う。	1後	30	1	○			○			○	
○			情報科学	医療の現場においては質の高い医療サービスを提供するために、患者情報や検査情報など様々な情報がコンピュータシステムによって管理運用されている。これらのシステムを支えるコンピュータについてその基本的な構成と機能を理解し、適切な利用が行えるように学習していく。	1前	30	1	○	△		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			表現法	人間関係を円滑にする対話についての基礎的な知識を深め活用できるようにする。また、目的に応じた表現様式について作成できるようにする。	1後	30	1	○			○			○	
○			外国語Ⅰ	医療現場で使える簡単な英会話の授業で、一般的な医療用語やフレーズを学んでいく。大きく分けると窓口での受付、電話での対応、主訴を訊く、検査の手順などを説明する、会計を行う、などで必要なフレーズを学習していく。その他、教養英語についても単元の中で取り入れていく。	1前	30	1	○			○			○	
○			外国語Ⅱ	医療現場で使える簡単な英会話の授業で、一般的な医療用語やフレーズを学んでいく。大きく分けると窓口での受付、電話での対応、主訴を訊く、検査の手順などを説明する、会計を行う、などで必要なフレーズを学習していく。その他、教養英語についても単元の中で取り入れていく。	1後	30	1	○			○			○	
○			保健体育	医療人は健康に障害が生じた人だけでなく、健康保持増進にも重要な役割がある。相手の反応を確認する体験を通じて、仲間づくりを行い、身体的トレーニング法を学び、自己の健康意識を高める能力を習得する。	1前	30	1	△		○	○			○	
○			医学概論	生活に深くかかわる保健・医療システムや医療技術の現状と課題を理解する能力を修得する。	1前	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	解剖学では人体を理解するための基礎となる正常な構造について学習する。人体構造を理解するには、構造の基本単位である細胞を理解し、それら集合体がどのような形態・機能を有するかを学習する必要がある。本講義では解剖用語をはじめ細胞・組織、骨、筋、脈管や一部臓器について講義を行う。	1前	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰで学んだ内容に引き続き、放射線技師に必要な呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器、神経、感覚器の重要事項を重点的に学習する。人体発生の基本事項を学習し、人体の成り立ちや成長発育の概要を習得する。	1後	30	1	○			○			○	
○			解剖学実習	解剖学、生理学は画像診断、核医学、放射線治療の礎となるものである。解剖の基礎を踏まえ、部位の名前及び立体的にとらえることを学ぶ。人体の構造に興味を持ち、確実に覚えていく。	1後	30	1	△		○	○			○	
○			生理学	人体の機能の仕組みについて学ぶ。人体の約60兆個という膨大な数の細胞には、それぞれ個別の役割を担い、必要なタイミングで必要な分の仕事を行うことで、人（個体）の生命を維持している。ここでは、正常な細胞（群）の役割とその連携について詳しく学習していく。	1前	30	1	○			○			○	
○			病理学Ⅰ	世界には風邪のような感染症からガンといった悪性腫瘍まで多種多様な病気が存在する。そのような病気の原因と成り立ちを明らかにする学問が病理学である。病気の原因を解明することで、病気を治療する方法が発見でき、さらには病気の発生を予防することも可能となる。この科目では医療従事者にとって必要な病理学の一般について詳しく学習する。	1後	30	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			病理学Ⅱ	世界には風邪のような感染症からガンといった悪性腫瘍まで多種多様な病気が存在する。そのような病気の原因と成り立ちを明らかにする学問が病理学である。病気の原因を解明することで、病気を治療する方法が発見でき、さらには病気の発生を予防することも可能となる。この科目では医療従事者にとって必要な病理学の一般について詳しく学習する。	2前	30	1	○			○		○		
○			臨床薬理学	人体の生理機能を復習しながら体内での薬物動態を理解する。さらに、将来診療放射線技師として関与する患者が服用している可能性の高い薬物に対する理解を深める。	2後	30	1	○			○		○		
○			看護学概論	医療の現場において同じチームの一員として協力し合うためには、医療職者として共通の対象理解が必要である。様々な看護分野における技術や対象とのコミュニケーション方法を学び、対象およびその家族へのより良い医療の提供を目指す。	2後	30	1	○		△	○		○		
○			臨床医学Ⅰ	日常臨床でよく遭遇する疾患につき、基礎知識に始まり、診療放射線技師がそれらの疾患とどのように持つのか、また画像診断や放射線治療とそれぞれの疾患との関わりを学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○			臨床医学Ⅱ	日常臨床でよく遭遇する疾患につき、基礎知識に始まり、診療放射線技師がそれらの疾患とどのように持つのか、また画像診断や放射線治療とそれぞれの疾患との関わりを学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○			救急医学	医療従事者として、生命の大切さを理解し、救急疾患の特性を理解し、救急手当や応急手当を理解・修得出来るように講義を行う。救急における技師の役割、撮影方法を理解し、修得出来るようにする。	2後	30	1	○			○			○	
○			基礎医学大要演習	基礎医学大要演習では人体の構造、機能、病態を中心に学習していく。国家試験においても配点が高い科目であり非常に重要な科目となる。この科目では人体の機能、器官の役割について詳しく講義を行っていく。	3前	20	1		○		○			○	
○			放射線技術学総論	放射線は「両刃のやいば」言われている。放射線は非常に有用であるが、潜在する危険もある。この科目は“放射線入門”ということに目的を置き、放射線を利用して業務を行う診療放射線技師として、放射線の基本知識を得ることを目的とし講義を行う。	1前	30	1	○			○			○	
○			応用数学	診療放射線技師にとって、フーリエ級数・フーリエ変換の知識は放射線の振舞や、X線CTやMRIなどの機器の基本原理を理解するうえで必要な基礎知識である。本講義では積分の復習を兼ねて関数の性質について学んだあと、画像解析などを行う際に用いられるフーリエ変換・フーリエ級数について講義する。	2前	30	1	○			○			○	
○			医用工学Ⅰ	放射線機器を構成する電気回路や電子回路を理解するための基礎知識として電界や磁界の性質、直流電流を用いた回路計算などについて講義を行う。	1前	30	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医用工学Ⅱ	放射線機器を構成する回路を理解するために、信号処理を行う各種の電子回路や半導体素子の動作原理について講義を行う。	1後	30	1	○			○		○		
○			医用工学実験	放射線機器を構成する基本回路の役割とその動作特性を実験により学習する。	1後	30	1			○	○		○		
○			医用工学演習	電気・電子回路の動作特性を復習し、計算問題などの演習問題について、講義を行う。	3後	20	1		○		○		○		
○			放射線物理学Ⅰ	放射線物理学は放射線による起こる現象を理解する学問である。放射線について正しく理解するための各種の放射線の特性や原理についての詳細を講義する。	1後	30	1	○			○			○	
○			放射線物理学Ⅱ	放射線物理学Ⅰで学習した内容を基礎に、放射線が人体をはじめとする物質とどのような相互作用を起こすか、また放射線の応用について講義する。	2前	30	1	○			○			○	
○			放射線物理学・計測学演習	放射線物理学、放射線計測学に関して講義で学んだことを基に総合的に演習し、知識のまとめと両科目の密な関連性について学習していきます。国家試験で過去に出題された問題を中心に演習していきます。	3前	20	1		○		○		○	○	
○			放射化学Ⅰ	放射化学とは放射線を放出する原子（放射性同位体：RI）について学ぶ学問である。RIは原子力発電所のみならず、医療現場でも用いられる有用な物質の一つであるが、取扱いを誤ると甚大な被害がでる危険な面も有している。本講義ではRIを正しく理解し、その特性等について講義を行う。	1後	15	0.5	○			○			○	
○			放射化学Ⅰ	2年次は放射性同位体元素が医療に应用されるまでに必要な手順について、分離・標識・分析といった各段階について講義を行う。	2前	15	0.5	○			○			○	
○			放射化学Ⅱ	放射化学Ⅱでは放射性同位体元素が医療に应用されるまでに必要な操作・特徴を総合的に講義する。また、国家試験対策についてもここで講義する。	3前	30	1	○			○			○	
○			放射化学演習	放射化学演習ではこれまで学習した内容の総復習及び、個々の詳細について講義を行う。また、国家試験対策も行う。	3後	20	1		○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			放射線生物学Ⅰ	診療放射線技師は電離放射線を取り扱い、自らの手で人体に放射線を照射する立場に立つ。放射線が人体にどのように影響するかを理解しておく必要がある。本講では放射線生物学の基本的な概念を学ぶ。	1後	15	0.5	○			○		○		
○			放射線生物学Ⅰ	放射線の被ばく管理や放射線治療技術の理解のためには、基礎的な放射線生物学の内容が必要である。放射線生物作用の過程や細胞への影響、組織・個体レベルでの放射線の影響、発がんや遺伝的な影響等の放射線生物学の基本的な概念を学び、放射線の医学的利用について考えることを目標とする。	2前	15	0.5	○			○		○		
○			放射線生物学Ⅱ	放射線が医療に応用されるまでに必要な理論を総合的に講義する。また、国家試験対策についてもここで講義する。	3前	30	1	○			○		○		
○			放射線生物学演習	放射線生物学演習ではこれまで学習した内容の総復習及び、個々の詳細について講義を行う。また、国家試験対策についてここで触れる。	3後	20	1		○		○		○		
○			放射線計測学Ⅰ	放射線計測学はその名のごとく放射線の量を測るための原理や方法について学ぶ学問です。この科目では放射線計測の基礎として、放射線量の単位と定義、種々の検出原理とそれに関わる放射線物理学、各種測定器の特性について学びます。	2前	30	1	○			○			○	
○			放射線計測学Ⅱ	放射線計測学Ⅰの知識を基に、照射線量、吸収線量、エネルギー、放射能など線量測定の基本となる各諸量の定義および測定原理について学び、臨床で使用される実践的な線量測定方法まで学習します。	2後	30	1	○			○			○	
○			放射線計測学実験	測定データが得られる過程、データ処理法、実験条件について十分な理解が得られ、正確なデータを得るように実験を行う。GM計数管、NaIシンチレーション検出器を用いてその特性を理解し、スペクトルの仕組みなどを理解すると共に半値層測定において実効エネルギーの求め方を習得する。また、CTでの被ばく線量測定、透視装置での皮膚被ばく線量測定も行う。	3前	30	1			○	○		○		
○			画像解剖学	画像解剖は、疾患に対しての読影を学ぶ学問です。頭部・胸部・腹部を初め、心臓での疾患を覚え、画像でどのようにあらわれるのかについて学習していきます。	2前	15	0.5	○			○			○	
○			画像解剖学	画像解剖は、疾患に対しての読影を学ぶ学問です。消化管・泌尿器・生殖器および整形外科分野での疾患を覚え、画像でどのようにあらわれるのかについて学習していきます。	3前	15	0.5	○			○			○	
○			放射線画像機器学Ⅰ	放射線画像機器学とはX線を用いる検査機器、器具、CT撮影装置、磁気共鳴画像診断装置、超音波画像診断装置、眼底写真撮影装置と幅広い範囲を網羅している。ここでは、X線を用いる検査機器からCT撮影装置までの原理とその実践について学ぶ。放射線画像機器学ⅠでX線発生装置、X線機械装置について学びます。	1後	30	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			放射線画像機器学Ⅱ	放射線画像機器学ⅡではX線映像装置、診断用X線画像処理装置、関連機器、診断用X線装置システム、診断用X線装置の管理、医用X線CT装置について学びます。	2前	30	1	○			○		○	○	
○			放射線機器学実験	機器の模型回路および診断用X線装置の特性を実際に測定し、実際の医用機器における特性の測定方法を学びます。	1後	30	1			○	○		○		
○			診療画像機器学演習	画像診断機器にはX線装置として、X線源装置、X線高電圧装置、X線機械装置、X線映像装置、X線画像処理装置、その他の関連機器があり、これらを応用した一般・透視・循環器（血管撮影）・乳房・歯科用等のX線検査システムやX線CT装置、磁気共鳴を利用した磁気共鳴画像診断装置や超音波を利用した超音波画像診断装置等がある。これらのなかで、磁気共鳴画像診断装置、超音波画像診断装置を省いたものを教授する。撮影・撮像原理、システムの構成と特徴、動作原理、安全管理等を教授するものである。	3後	20	1		○		○		○		
○			エックス線撮影技術学Ⅰ	診療画像技術のX線一般撮影の分野を担当する。本教科は診療放射線技術の総合科目とも言えるが、これらの知識を1年生の段階でも無理なく理解出来るように、各分野の基本的事項から講義を始める。	1前	30	1	○			○		○		
○			エックス線撮影技術学Ⅱ	これからの診療放射線技師に必要な造影剤の性状、注意すべき副作用および対処方法、造影検査の目的、造影手技、造影剤を使用した各種の検査法、画像評価法、業務知識、医療人としての責任など、一般撮影、造影検査およびこれらに関連する事項について講義する。	1後	30	1	○			○		○		
○			CT検査技術学Ⅰ	CT検査は、技師の知識・技術としてなくてはならないものです。CT検査の理論から頭部を始め、胸部・腹部・四肢等の撮影方法までを学習していきます。Ⅰでは基礎的理論を主とします。	2通	30	1	○			○		○		
○			CT検査技術学Ⅱ	CT検査は、技師の知識・技術としてなくてはならないものです。CT検査の理論から頭部を始め、胸部・腹部・四肢等の撮影方法までを学習していきます。Ⅱでは臨床応用を主とします。	3前	30	1	○			○		○		
○			エックス線撮影技術学実習	撮影技術学実習は、実際の撮影方法や体位、X線入射方法を学ぶものです。技師の仕事として基礎となる分野であり、必要不可欠なものです。就職して即実践できるように、実習していきます。	2後	30	1			○	○		○		
○			エックス線撮影技術学演習	X線撮影技術は、診療放射線技師にとって不可欠なものである。技術の知識、体位、X線入射点など全てのことを復習していきます。	3後	20	1		○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			MRI画像検査技術学 I	MRIは人体に豊富に含まれる水素原子が磁場と電波によって磁気共鳴現象を起こし、その際に発生した信号を検出することで画像を形成する装置です。前期ではMRIの基本概念について詳しく学習し、後期では基本概念を基に高速撮像法などのより発展的な撮像原理やMRI装置のシステム構成について、また、MRI用の造影剤や臨床応用について学習します。	2通	30	1	○			○				
○			MRI画像検査技術学 II	MRI画像検査技術学 II では、MRI画像検査技術学 I で学んだ内容をさらに深く追求していきます。原理や装置および検査法については再度復習し、臨床で応用されている技術について学習していきます。	3前	30	1	○			○				
○			超音波検査技術学	超音波診断装置は超音波の反射を利用して断層像を得ることができる画像診断装置です。他の装置と違い様々な断層像をリアルタイムで描出し、血流の様子や臓器の動き、さらに組織の硬さも知ることができます。この科目では超音波診断装置の基本原則と診断および画像解剖を含めた臨床的技術について詳しく学習していきます。	2通	30	1	○			○				
○			診療画像検査学実習	診療画像検査学実習では、MRI装置、超音波装置、一般エックス線撮影を中心に、各種装置の基本的操作を実習し、画像成立までに存在する種々の問題や検査を行う際の留意点および画像所見など実際に撮影し画像を見なければ分からない点を、実習を通して習得します。	2後	30	1			○	○				
○			診療画像検査学演習	これまでに履修したMRI、超音波、眼底写真検査についての基礎的知識のまとめと応用力を養うことを目的に演習を行ない、解説及び補足を講義にて学習していきます。	3前	20	1		○		○				
○			診療放射線技術学研究	診療放射線技師の業務は画像検査、放射線治療、院内ネットワークの運用と多岐にわたり、それぞれの分野で診療放射線技師による研究が成されています。さらに研究内容は機器の原理や性能、疾患に対する画像所見など様々である。本授業では今まで履修した科目の中で、将来研究するために特に必要な基礎的分野を中心にさらに詳しく学び、研究に対する探究心と知識を身に付けます。	3通	45	1	△			○	○			
○			核医学検査技術学 I	核医学検査技術学は放射性同位元素で標識した放射性医薬品を用いて臓器の機能および病態の解明を行う検査である。検査の目的、放射性医薬品、集積原理、検査方法、画像解剖学、臨床的意義を臓器ごとに学習（小児を含む）し、核医学検査技術学の基本的知識と技術を習得する。	2後	30	2	○			○				
○			核医学検査技術学 II	核医学技術学 I を基に、検査の目的、放射性医薬品、集積原理、検査方法、画像解剖学、臨床的意義を臓器ごとに学習（小児を含む）し、核医学検査技術学の基本的知識と技術を習得する。	3前	30	2	○			○				
○			核医学検査機器学	核医学検査に利用される放射性医薬品、核医学検査装置、撮像原理と画像処理および装置性能評価・保守管理の知識を理解し、その技術を身につける。	2後	30	1	○			○				○
○			核医学検査技術学演習	核医学は、非密封放射性同位元素標識化合物を利用し、診療と研究を行う医学分野である。総論では、臨床核医学に必要な物理的および機器工学的基礎知識、放射性医薬品の集積機序、並びに臨床応用に関する基礎知識を総合的に解説する。各論では、各臓器の解剖・生理・生化学などの基礎知識を前提に、核医学診断法・治療法の概論を、臨床医学分野における意義、位置づけなど含め、他の画像診断法や治療法とも比較しながら講義する。	3後	20	1		○		○				

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			放射線治療技術学Ⅰ	放射線治療ではX線,電子線,陽子線などさまざまな放射線が利用されている。治療を行う場合、それら放射線の特徴を理解し、疾患に照射される放射線の量を正確に評価しなければならない。この科目では放射線が体内で示す特徴とその放射線の吸収線量の計算法や放射線治療の手順などについて講義する。	2後	30	2	○			○				
○			放射線治療技術学Ⅱ	放射線治療は、放射線の種類や照射の技術的違いによりさまざまな装置が用いられています。それらの装置の特徴と照射方法を理解し、各疾患に適した装置と照射術式の手順を学習していきます。	3前	30	2	○			○				
○			放射線治療機器学	現在の医療機関ではリニアックをはじめさまざまな放射線治療装置が運用されています。また利用される放射線の種類も装置により異なります。この科目では放射線治療装置を構成する機器の役割と放射線の発生原理などを学習していきます。	2後	30	1	○			○			○	
○			放射線治療技術学演習	放射線治療全般に渡った知識や吸収線量の計算法などを復習するために演習問題に取り組みます。	3後	20	1		○			○			
○			画像工学Ⅰ	医療用画像の基本となるアナログのX線画像システムを中心に、ハロゲン化銀感光材料の感光機構、感光材料、現像処理およびそれに伴う写真特性、画像の評価法、環境保全について講義する。	1前	30	1	○			○			○	
○			画像工学Ⅱ	画像工学Ⅰで学んだアナログ画像理論を基礎として、デジタル画像理論について講義を行う。デジタル画像の概念・基本から、画像処理、画像フィルタ、デジタル画像の評価について学習する。これらは診断情報の多い画像生成、被ばく線量低減の点から重要となる。	2前	30	1	○			○			○	
○			画像工学Ⅰ実験	前期に履修した画像工学を受けて、その実際的な理解を目的とする実験を行う。医療現場で使用されている直接X線撮影（増感紙-フィルム系）の実験を通して、画質（感度、被写体コントラスト、鮮鋭度、粒状度）の理解を深める。特に直接X線撮影の実験は、X線発生装置を使用するため、その基本的な原理について十分な知識を必要とする。他の講義で得られた知識をより確実に理解することを望む。	1後	30	1			○	○			○	
○			画像工学Ⅱ実験	画像工学Ⅱで学んだことを、実験を通してより深く理解することを目的とする。主にデジタルX線画像の成り立ち・画像処理効果について詳しく学習していきます。	2後	30	1			○	○			○	
○			医用画像情報学	現在、医用画像診断装置のほとんどはデジタルデータに基づいており、診療放射線技師が医療現場で発生する様々な情報の電子化に携わる重要性が益々高くなっている。電子化技術だけでなく、他部門との連携のための統合化技術について詳しく学習していきます。	3前	30	1	○			○			○	
○			画像・医用画像情報学演習	画像工学、医用画像情報学についての基礎的知識のまとめと応用力を養うことを目的に演習を行ない、講義にて学習していきます。	3後	20	1		○			○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			放射線関係法規	医療法(医療法施行規則)、診療放射線技師法などの、放射線に関連する法令・規則について、構成と内容およびそれぞれの法令用語を詳しく学習していきます。	1前	30	1	○			○					
○			放射線関係法規	医療法(医療法施行規則)、診療放射線技師法などの、放射線に関連する法令・規則について、1年次に履修した内容をさらに深化させ学習していきます。	3前	30	1	○			○					
○			放射線安全管理学	国際放射線防護委員会(ICRP)等の関連国際機関の基本理念および我が国の放射線防護の法体系、特に放射線障害防止法、医療法施行規則および電離放射線障害防止規則について学ぶ。	2前	15	0.5	○			○					
○			放射線安全管理学	放射線による障害防止のために必要な防護、施設等の基準、放射線同位元素を備える施設の管理技術および放射線の安全取扱法を習得する。2年次に履修した内容の復習である。	3前	15	0.5	○			○					
○			放射線安全管理学演習	放射線による障害防止のために必要な防護、施設等の基準、放射線同位元素を備える施設の管理技術および放射線の安全取扱法を習得する。	3後	20	1		○		○					
○			医療安全管理学	医療技術者として必要な安全管理に対する概念を理解し、リスク評価、管理、対応、予防策について学ぶ。また、実際の医療事故事例やKYTを通じて、安全管理の重要性や危険因子を理解することで実行能力を身に付ける。	2後	15	0.5	○			○			○	○	
○			医療安全管理学	核医学検査および放射線治療における安全管理に対する概念を理解し、リスク評価、管理、対応、予防策について学ぶ。また、実際の医療事故事例やKYTを通じて、安全管理の重要性や危険因子を理解することで実行能力を身に付ける。	3前	15	0.5	○			○			○	○	
○			臨床実習(2年次)	2年では病院で行われるX線単純撮影、透視、CT、各種造影検査、MRI、超音波画像検査に関する診療を体験する中で基礎知識・技術を再確認し医療チームの一員としての責任と役割を学んでいきます。学内実習では一般撮影、透視、CT、MRI、超音波、医療安全、画像診断について実践的内容を実技形式にて学んでいきます。	2前	225	5				○	○	○	○	○	○
○			臨床実習(3年次)	3年では病院で行われる核医学検査、放射線治療等に関する診療を体験する中で実践的な幅広い知識、技術を習得する。また、各部門の運営の実際や被検者及び患者に対する適切な対応を学んでいきます。2年次と同様に、学内実習では一般撮影、透視、CT、MRI、超音波、医療安全、画像診断について実践的内容を実技形式にて学んでいきます。	3前	225	5				○	○	○	○	○	○
合計			88科目		2745単位時間(95単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

本校所定の教育課程を履修し、その単位をすべて修得していること。
卒業試験及び認定実技審査のすべてに合格し、本校が定める診療放射線技師となるのに必要な知識、技術及び医療従事者としての人格を修得していること。
本校の規則に違反した事がないこと。

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。